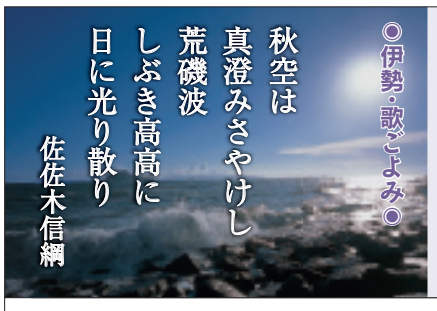


学園報　皇學館　第40号

発行・編集　学校法人皇學館　企画部
TEL0596-22-6496・8600
大　学
大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部・社会福祉学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL0596-22-0201㈹　FAX0596-27-1704
高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577　TEL0596-22-0205㈹
【中学】〒516-8588　TEL0596-23-1398㈹

●今号の注目記事

1面
古事記撰上千三百年記念行事を開催
2面
〈皇學館デー〉を初開催
3面
「おきつもの杜」をお披露目
4・5面
旅は〝生きた教科書〟
—ゼミ旅行報告記—
6面　高校・中学校
メルボルン語学研修
ともやま公園宿泊研修 ほか
7面
萼の会地区別教育懇談会開催
8面
夏休み子どもキャンプ2012

●連載

2面
皇學館人物列伝⑱ 後藤丹治
7面
先輩、お元気ですか
服部清純氏
(国史学科第2期・昭和42年卒)

古事記撰上千三百年記念行事を開催

上／古式ゆかしい装束を身にまとった舞女が、雅楽の演奏にあわせ息の合った舞を奉奏
下／「今も変わらぬ男女の世界が語られており、〝生きているって素敵〟と思う。そうしたエネルギーを与えてくれる古事記の魅力を伝えていきたい」と平野氏

九月二十一日、記念講堂において古事記撰上千三百年を寿ぐ記念行事が開催された。会場には約四百名の学生と教職員が集い、『古事記』編纂の意義と本学の建学の精神を確認するとともに、日本の起源や世界観について改めて思いを馳せる一日となった。

国生み神話の世界に浸る

午前九時に始まった記念行事では、最初に祭典が執り行われた。

天照坐皇大御神をご祭神として修祓、降神の儀、献饌と進んだ後、斎主を務めた本澤雅史教授が祝詞を奏上。雅楽部により浦安の舞が奉奏されると拝礼、撤饌、昇神の儀と続き、厳かな雰囲気の中、祭典は滞りなく斎行された。

十時からは、語り部・平野啓子氏による古事記の語りが行われた。平野氏は大阪芸術大学放送学科教授、武蔵野大学非常勤講師を務めながら〈語り部・かたりすと〉として数々のテレビ番組や舞台で活躍中。日本の文化や日本語の美しさを紹介するなど語りの世界に新境地を開き、高い評価を得ている。雅な衣装を身にまとった平野氏は古事記に登場する神々、イザナギ・イザナミノミコトに扮し、国生みの場面をドラマチックに熱演。原文、現代語訳の合間にユーモアあふれるトークを織り交ぜたわかりやすい語りに、学生たちもじっと聞き入っていた。

後半は、本学大学院文学研究科の毛利正守特命教授による「古事記の構想から見る天照大御神」の講演が行われた。毛利教授は古事記の記述を読み解きながら、歴代天皇に継承される三種の神器の一つ〈鏡〉の存在について言及。鏡が天照大御神自らの御霊代として伊勢神宮・内宮に祀られ日本人の精神的な支柱として長く受け継がれている一方で、鏡とは別に天照大御神の血統を継いだ天孫・邇邇芸命が天から降り、その血統が天皇へとつながって日本の統治が連綿と続いているという二つの流れが古事記の中でしっかり語られていることを見据えておくべきと解説した。なお、平野氏においてはご多忙のところ同講演を聴講していただいた。今後、古事記の語り部として益々のご活躍をお祈りしたい。

講演する毛利教授

神道学科三年の草地志保美さんは平野氏の語りについて「意訳や現代訳を交えて語られていたのでとてもわかりやすかった」と言い、国史学科三年の松本一成君も「物語調だったので堅苦しくなく、また、現代に通じるところもあってすんなり頭に入ってきた」と話していた。毛利教授の講義について神道学科三年の林駿君は「日本書紀と違う部分があることを知って、興味深かった」と感想を語っていた。

六二四名の研究者が参加

日本宗教学会 第七十一回 学術大会

九月七日から九日にかけ、日本宗教学会第七十一回学術大会が開催された。同学会の本学での開催は二十八年ぶりで、新装なった六号館、七号館を中心会場とし、全国の大学等の研究者ら六二四名(うち日本宗教学会会員五五〇名)が参加して行われた。

本学開催は二十八年ぶり

大会初日の九月七日に行われた公開シンポジウム「ためされる宗教の公益」は「三・一一震災後、復興に向かって各地で明るい動きがあるなかで、災害のその時に臨んだ宗教、あるいはまた復興の時に臨んでいる宗教の社会的役割を〝公益〟という観点からあらためて問いかけてみたい」(シンポジウム趣旨説明より)という狙いから行われたもので、パネリストに稲場圭信先生(大阪大学)、岡田真美子先生(兵庫県立大学)、小原克博先生(同志社大学)、鈴木岩弓先生(東北大学)、コメンテーターに中牧弘允先生(国立民族学博物館)を招き、本学の櫻井治男教授がモデレーターを務めた。聴衆は約二百十名にのぼり、先生方の学界最前線の発表に熱心に聞き入る姿が見られた。

大会二日目と三日目の研究発表では個人発表(二六五名)とパネル発表(パネル数十九、発表者七十八名)が行われ、本学関係者では文学部の白山芳太郎教授、現代日本社会学部の板井正斉准教授、神道研究所の山口剛史助手、院生のグエンドリン氏、神守昇一氏、研究生の松田佳恵子氏が日頃の研究成果を発表した。なお、期間中、神道博物館での特別展示(テーマ)、祭式教室見学があり、十日は神宮・朝熊山を巡るエクスカーションも実施された。

最後に、大会運営に当っては、大学当局からご協賛をいただいたほか、多数の教職員や学生のご助力をいただき、大会のプログラムも予定通り滞りなく終了することができた。今回の学術大会の開催にご協力いただいた方々に心より御礼申し上げたい。　文責　河野　訓

初日の公開シンポジウムでは宗教の公益をめぐって発題・議論が行われた

倉田山春秋

秋学期が始まった。夏休みは、春学期の成果を確かめ、実りの秋を迎える為の重要な期間である。地区別教育懇談会、各種の実習や研修会、また集中講義等。そして、館友全国大会、卒業生教員との懇談会等々。倉田山を巣立った先輩たちは、かつての学舎を母館と呼ぶ▼創立百三十周年・再興五十周年は、奇しくも古事記撰上千三百年と重なる。古事記は、日本の原質を物語る。「五十鈴宮」(皇大神宮)御鎮座の地に学ぶことの意義を、今、改めて噛みしめたい。交流協定に基づく中国人留学生たちが、九月卒業生・修了生として、進学、就職をする。二年ないし四年間の蓄積を活かし、両国の真の架橋となって欲しい▼今年の倉陵祭のテーマは「進～すすむ～」。高村光太郎「道程」の一節に「僕の前に道はない／僕の後ろに道は出来る」とある。私たちは、常に地図のない道を歩み続ける。そして、いつか人知を超えた自然や神に支えられていることを知るのである。この詩人のように、遠い道程を歩く自らを叱咤し、「気魄を僕に充たせよ」という神への祈りと同時に、今を生き、学べることの感謝の心を忘れてはならない。

〈皇學館デー〉を初開催

講演＋合同学校説明会を実施

七月二十九日、津駅前の「ホテルグリーンパーク津」において皇學館大学・高校・中学校合同の学校説明会と講演会による〈皇學館デー〉が開催された。初めての試みながら、当日は本学園への入学を希望する児童・生徒と保護者、五十組ほどが来場。真剣な表情で担当者の話を聞いたり、相談したりする光景が見られた。

大学、高校、中学校が個別に行ってきた学校説明会と講演会を共同で開こうと企画された〈皇學館デー〉。広報活動を一元化することで効率的かつ戦略的な情報発信ができるとともに、〈皇學館〉のブランド力を強化する狙いもある。

十三時から始まった当日は、前半に所功本学特別招聘教授による講演会「日本人にとって『大切なこと』」が開催された。かつて本学で九年にわたり教鞭をとってきた所教授は、冒頭、皇學館の特色について説明。先生と学生・生徒の結び付きが強いことや、明朗で礼節をわきまえ、誰に対してもきちんと挨拶ができるといった日本人として当たり前の所作が自然に身に付く学風であることを力強く語った。また、明治天皇がまとめられた「教育勅語」を取り上げ、祖先たちが守り伝えてきた道義道徳を大切にする日本人の美徳、優れた国柄についてわかりやすく解説した。

講義終了後、学校説明会が実施された。各担当者はプロジェクターを用いながら施設・設備などの教育環境や入試概要について詳しく説明。会場には進学相談ブース、先輩相談ブースも設けられ、参加者はカリキュラムやクラスの雰囲気など、熱心に問い合わせる姿が見られた。

皇學館中学校を志望しているという津市内の母子は祖母から勧められたという、「英語教育に力を注いでいると聞いた。将来は留学も視野に入れているので、今日は授業の様子などを質問しに来た」と話した。教師をめざしているという亀山市内に住む男子生徒は高校の先生から推薦があったと語り、父親は「皇學館高校と野球の練習試合をしたことがあり、部員たちの礼儀正しさが印象に残っている。そんな学風なら確かだと思った」と息子さんの進学を応援したいと話した。

「日本人としての発信力を鍛える教育が大切」と語る所教授

現代日本塾を開催

各界の第一人者を講師に定期開催されている現代日本塾。今回は第十六・十七・十八回の模様を紹介する。

第十六回　Withに生きる、Withを生きる

講師●岡本栄一先生
社会福祉法人 大阪ボランティア協会 顧問

〝対等な関係〟で問題解決

五月三十一日、大阪ボランティア協会顧問の岡本栄一先生を講師に迎えて、第十六回「現代日本塾」が開催された。

先生は豊富な現場経験を踏まえて話を展開。ボランティア活動とは一方的な奉仕ではなく、一つの目的のために当事者とボランティアが〝対等な関係〟でもって力を合わせて解決にあたる行動と説いた。ほか、〝実践〟の大切さやソーシャルワーカーの仕事、愛することの意味など、貴重な提言をいただいた。

第十七回　地域も大学も元気にする〝まちづくりへの学生参加〟

講師●片寄俊秀先生
大阪人間科学大学 教授

まちづくりは人づくり

六月十四日に開催された第十七回「現代日本塾」では大阪人間科学大学教授の片寄俊秀先生が講演を行った。

先生は「黒塀プロジェクト」や「ぼうさい朝市」などまちづくりに関する先進的な事例を紹介しながら大学と地域との連携が大切と熱弁。「まちづくりは人づくりの道場である」と語り、地域を活性化する取り組みを通じて学生も成長し、商店街が研究テーマとなる材料にあふれていることなどを力説した。折しも、本学は今年度の「全国まちづくりカレッジ」の開催校に決定している（開催日は十一月十七日、十八日の二日間）。実行委員会のメンバーはもちろん、ほかの学生にとっても〝自分たちでできるまちづくりとは何か〟を考える絶好の機会となった。

第十八回　障がいのある人と共に生きる ―施設と地域の新たな関係を目指して―

講師●片山宣博先生
社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団 事務局次長 兼 企画推進部部長

地域福祉の実践を考える

七月十九日、産経新聞厚生文化事業団の片山宣博先生を講師に迎え、第十八回「現代日本塾」が開催された。

先生は福祉施設の運営を通じて痛感したことと、「障がいのある人が暮らしやすい街＝誰もが暮らしやすい街」であると講演。地域における福祉施設や専門職の役割、現場でのさまざまな取り組みについて話された。また、学生からの質問にも丁寧に答えていただき、学生、教職員ともども深く感銘を受けた。

県内各地から約六百人が参加

皇學館高校　学校見学会

九月十五日、記念講堂において皇學館高校の第一回学校見学会が行われ、県内各地から中学三年生とその保護者約六百人が参加した。中村貴史校長は「本校は、学習とともにクラブ活動にも熱心に取り組む文武両道を大切にしており、学校全体が明るいです。今日はゆっくりと見学してください」と挨拶。続いて、多田真二教頭が学校の概要と近況についてスライドを使って説明し、朝テストや学習チェックシートなどで基礎学力の習得を徹底していること、学習の習慣づけを図っていること、クラブ活動や学校行事にも積極的に取り組んでいることなどを写真とともに紹介した。

その後、入試制度の説明を経て、吹奏楽部のミニコンサートを実施。県代表として今年度も東海大会に出場した同部は、「情熱大陸」や「風になりたい」など身近な曲を迫力ある演奏で披露し、参加者も手拍子で応えるなど大いに盛り上がった。

続いて、高校校舎へ移動し、校内や体育館などを見学。中学生たちは目を輝かせながら「コンピュータ教室などもあって設備が良い」「吹奏楽部の演奏に圧倒された。クラブ活動が充実していると感じた」などと語っていた。学校見学会は十一月十七日にも予定されている。入試の詳細については七面に掲載。

ワクワクした様子で校内を見学する参加者たち

皇學館　人物列伝 18

後藤丹治

ごとう　たんじ

軍記研究の大家

大阪教育大学が大阪学芸大学だったころ創刊された国文学系の雑誌に「学大国文」がある。その表題の揮毫者は後藤丹治である。

後藤は、中世のいわゆる軍記物と近世の読本を専門とし、岩波の日本古典文学大系『太平記』一～三、同『椿説弓張月』上下を校注している。後藤が軍記物にひかれるようになったのは三重県立第四中学校（宇治山田高校）在学中に作文の特等に入選したことが契機である。この四中の作文懸賞には一橋大学の中山伊知郎や作家の梶井基次郎なども入選した伝統がある。その賞品として池辺義象訳述『邦文日本外史』を得、それに収録されていた保元・平治・平家・盛衰記・太平記などの軍記物が後藤の心を捉えたのであった。また、皇學館卒業の森幹三郎という国漢教師が使った上田萬年編纂の国語読本に阪正臣の「錦の御旗」という太平記を素材にした新体詩が載せられていたことも影響を与えた。

大正五年に四中を卒業するが神宮皇學館の試験に体格で不合格となって一年浪人し、翌六年に合格。京大に合格した時よりも嬉しかったと振り返っている。皇學館では漢文を湯浅廉孫に、日本文法を次田潤らに習う。中でも鈴木暢幸の平家物語は時間のたつのが惜しいと思ったというほどであるから、いかに軍記物に傾倒していたかが知られる。京大修了後、吉澤義則の推薦で着任した東大史料編纂所でも太平記について発表し、評価されて有栖川宮学術奨励資金を得ている。

後藤は後年、岩波の古典大系の注釈を担当するが、古典の注釈におよそ三つの段階があることを示している。第一段階は現代語に言い換える程度の注釈、第二段階はその作品の成立した時代の言語感覚を取り入れた注釈、第三段階は作者の言語意識、表現意識に即した注釈である。めざすは第三段階であるが、こうした注釈に対する姿勢は皇學館卒業の教師から四中で教えを受け、また自らも皇學館で学ぶという学びの循環がそれを育んだことは疑いがなかろう。同じ四中出身で七歳年長の澤瀉久孝が『萬葉集注釋』を完成させたことに目標をおいたが昭和三十八年五月、母館の教授をちょうど一か月務めたところで心臓麻痺のため急逝した。

ごとう　たんじ◆伊勢市生。大正十年神宮皇學館本科卒業。大正十三年京大文学部選科修了。東大史料編纂所編纂官補、立命館大学教授、大阪学芸大学教授を歴任。昭和三十八年四月皇學館大学教授となるも五月急逝。軍記物、近世読本の研究者として知られる。一八九七～一九六三。

国文学科准教授　齋藤　平

社会福祉学部卒業記念
『おきつもの杜』をお披露目

櫻井社会福祉学部長(左)、卒業生たちがコブシとロウバイを記念植樹した

残暑厳しい八月二十六日、八号館前において館友会全国大会のプログラムのひとつとして「おきつもの杜」お披露目会が開催された。これは、社会福祉学部の学生が卒業を記念して第一期生より代々植樹してきた十二本の樹木と歌碑を名張から移し整備したもの。

おきつも(沖津藻)、または、おくつも(奥つ物)とは名張(隠(なば)る)にかかる枕詞だ。敷地にはハナミズキやソメイヨシノなど学生の思いが詰まった木木が並び、その名称にふさわしい雰囲気となった。

お披露目会には館友や教職員ら約四十名が参加。清水潔学長の「母校とのつながりを感じる場所にしてほしい」との言葉にうなずく姿が見られた。また、同学部を代表して挨拶に立った第一期生の古川愛梨さんは「形ではなく、精神が大事」と語り、名張で培った信念や地域、先生、友人との絆、つながりをこれからも大切にして福祉の現場で発揮してほしいと話した。そして、来年の二月十六日にホームカミングイベントを企画中であることも発表された。「開催の折は、おきつもの杜に集合してください。みなさんと再び会えるのを楽しみにしています」と実行委員のひとり、第六期生中條靖子さん。おきつもの杜は早くも同学部の卒業生に〝帰ってくる場所〟として心に刻まれたようだ。なお、名板の題字は第八期生で書家としても活躍している伊藤潤一君の作である。

古川さんの挨拶の後、先生と卒業生たちによる記念植樹、記念撮影が行われ、会はお開きとなった。

最後に、社会福祉学部開設によせて故櫻井勝之進元理事長が詠まれた歌を紹介する。「神風の伊勢の学びの林をばわかちうゑたり根つけ花咲け」。

名板は第10期卒業生より贈られた

お仕事拝見

本学と連携協定を結んでいる伊勢市。このコーナーでは〝地元愛〟を町づくりに活かすスペシャリストである伊勢市役所の方々にこれまでの取組みや伊勢の魅力について語っていただきます。

若い視点からのご意見を！

広報広聴課では、市の様々な情報についてお知らせする広報紙「広報いせ」の発行、ホームページやケーブルテレビ・FM放送による情報発信事業を実施しています。また広聴業務については、市民の皆様のご意見・ご要望等をお聴きする「市民の声」を受け付け、市政の運営に反映させています。他にも、市民ニーズに応じた法律相談などの相談事業も行っています。

昨年度末には、ホームページのリニューアルを行いました。今年度からはケーブルテレビの行政チャンネルにおいて、伊勢市河崎に住んでいる外国人落語家の桂三輝さんが、市内のキラリと輝いているものを見つけて紹介する「桂三輝の伊勢で一席」のコーナーを始めました。行政特集番組と共に「You Tube」へアップし、英語の字幕も付けて海外へも発信しています。また観光情報については、来年のご遷宮に向けてFacebookの活用も始めました。ぜひ一度ご覧下さい。

情報戦略局広報広聴課　世古口 睦 課長

情報化社会は、ますますスピードアップしながら進んでいます。市民の皆様のご意見をお伺いしながら、従来の取り組みにとらわれず、広報紙、ホームページ等の充実と有効活用により、わかりやすい情報を提供するとともに内容を充実し、情報共有・市民の方の市政への参加の促進を図っていきます。

学生の皆様におかれましては、伊勢市にお住まいの方だけでなく市外にお住まいの方からも、若い視点で感じたご意見をお寄せ下さい。縁のある方がまちの魅力を誇りに感じ、自信を持って語れるように、よりよい情報提供を行っていくよう取り組んでまいりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

まずは行動を！
「全国ボランティアフェスティバルみえ」の開催

〈三重からみえる未来の絆〉をテーマに「第二十一回全国ボランティアフェスティバルみえ」が九月二十九日・三十日の二日間にわたり実施された。本学は二日目、三十日の会場となっており、当日は台風17号の接近により午後のフィールドワークは中止となったものの午前の分科会は決行。一般の方二二八名が参加した。

本学での分科会は六つの教室に分かれ行われた。現在取り組まれているさまざまなボランティア活動や市民活動における課題に正面から向き合い、将来につなげていくのが狙いだ。その一つ、七三二教室で開かれた分科会では「われら高校生ボランティアの応援団！」と題し高校生がボランティア活動を続けていくために必要な仕組みづくりや仕掛けについて議論が交わされた。高校生に対象を絞った理由について、「素地を培いたい」と語るのは、本大会の実行委員で同会の司会を務めた現代日本社会学部の守本友美教授だ。「人と関わり、つながる楽しさを高校生の時に少しでも知ってもらえたら、やがて大学生や社会人となってボランティアをしようと思った時にすぐ実行に移しやすいと思うんです」。加えて、「人の役に立ちたいという意欲を支える人材・仕組みを組織としてきちんと位置づけることが必要」とも。その指摘を裏付けるように、本学の学生支援センターではボランティアルームを設置してから登録者が二七五名と大幅に増えた。ボランティア活動をしたい人とニーズをマッチングさせる、学生スタッフの存在が功を奏した形だ。スタッフの一人、社会福祉学科四年の榎本恵実さんは、ボランティアに対して介護や介助などの専門知識や技術が必要だと誤解している学生が多いと話す。「音楽が好きならコンサートホールの整理係、子ども好きなら絵本の読み聞かせなど、自分ができる、やりたいと思う小さなことから始めてもらえればいいんです」。守本教授も、本学の学生は生真面目で考えすぎる傾向が強い、と苦笑い。〝どにかくやってみる〟のがボランティアへの第一歩と言えそうだ。

上／司会を務める守本教授
下／高校生の時のボランティア活動について語るパネリスト

「気軽に声をかけてください」と榎本さん(左)

44年ぶりに国体代表に選抜
皇學館大学柔道部

一本背負投をかける稲田選手(右)

第六十七回国民体育大会柔道競技に教育学科一年の稲田達哉が三重県代表選手として出場しました。稲田は第三十七回三重県体重別柔道選手権大会において73kg級の部で優勝し、代表の座を獲得しました。皇學館大学柔道部から国民体育大会の代表選手が選抜されたのは、四十四年ぶりとなります。

国民体育大会当日、三重県代表チームは鹿児島県代表チームと対戦することになりました。稲田は次鋒として出場し、全日本実業柔道個人選手権大会準優勝の実力者、竪山選手と対戦しました。結果は、勇猛果敢なせめぎ合いの中、両者譲らず「引き分け」となりました。幾多もの惜しい場面があっただけに悔やまれる引き分けとなりましたが、収穫のある試合だったと思います。

現段階では皇學館大学柔道部として、決して納得のいく結果は出せていません。しかし、精神的にも肉体的にも日々成長していく学生を目の当たりにし、少しずつ手応えを感じています。

今後も皇學館大学柔道部は、様々な人への感謝の念を忘れずに、更なる飛躍を目指し、日々精進していきます。今後とも変わらぬご鞭撻、ご愛顧の程、よろしくお願い致します。

柔道部顧問　佐藤武尊

ぎふ清流国体(第67回 国民体育大会)結果

高校

●銃剣道競技(少年男子)
第7位入賞
先鋒　南端　拳(3年9組)
中堅　笹山　尊(3年3組)
大将　長野　優斗(3年7組)

●バドミントン競技(少年女子)
三重県チーム 1回戦敗退
中西　理緒(2年1組)
稲葉　美奈(2年3組)
川添麻依子(1年2組)

●卓球競技(少年女子)
三重県チーム 予選敗退
八木　汐里(1年8組)

大学

●柔道競技(成年男子)
三重県チーム 1回戦敗退
次鋒　稲田　達哉(教育学科1年)

国史学科

古代史の謎に迫った〝知の旅〟

岡田(登)ゼミ　3年　宗林孝拓

私たち岡田ゼミでは100ページを超える見学パンフレットを作成し、「九州古代史の謎を探る」というテーマで3泊4日の旅行を行った。1日目は宗像大社と香椎宮を正式参拝し、2日目は奴国、伊都国関係の遺跡・博物館、3日目は大野城や大宰府跡の見学と、太宰府天満宮の正式参拝、九州国立博物館の見学、4日目は磐井の墓とされる岩戸山古墳と吉野ヶ里遺跡の見学をした。

宗像大社辺津宮にて

宗像大社辺津宮では参拝の後、本学卒業の神主さんに神宝館を案内していただいた。筑前大島と沖ノ島を結んだ延長線上に朝鮮半島が描かれた「沖ノ島位置図」からは、宗像大社と朝鮮半島との関わりの深さを実感することができ、祭祀遺跡の出土品からは、大倭朝廷が宗像氏に行わせた古代祭祀について知ることができた。また移動中のバスの中では、岡田教授から皇室と宗像氏との結びつきについての話を聞き、古代史で宗像の地が重要な意味を持っていたことが分かった。

大倭朝廷が大宰府を防衛するために築かせた大野城では、百間石垣と呼ばれる城内最大の石垣の大きさに圧倒され、また石垣の南側には地下水を排出するための排水口が設置されるなど、水に配慮した当時の技術の高さを知ることができた。城址からは大宰府を見下ろす事ができ、土塁や石垣の陰から大宰府を守ろうとする防人たちの息遣いが聞こえてくるかのようであった。

毎日、夕食後は岡田教授のクイズ形式のテストにより、一日の知識の確認を行った。さらに皇學館大学の卒業生で現在教員をされている方のお話を伺うこともでき、最後まで充実した時間を過ごすことができた。

コミュニケーション学科

シンガポール人に学んだ〝伝え方〟

豊住ゼミ　3年　土口ふみ

コミュニケーション学科 豊住・川村ゼミは、9月9日から14日までシンガポールへ研究旅行に行った。そこで私たちは、国際社会の縮図のようなシンガポールで、日本にはないものを味わった。

たとえば、彼らは、コミュニケーションにおいてまず最初に表現する。日本人特有の間接的で静かな「察し」はなく、もっと直接的で大胆に言葉とジェスチャーで表す。互いの英語が母語ではないので、とにかく聞きにくいしとても分かりにくい。だというのに通じるのは不思議で、相手に伝わったと思う瞬間はなんだか心がくすぐったい気持ちになった。

そして、彼らはどこまでも対等だった。子供だろうが客だろうが外国人だろうが、そこにフィルターはない。自分と相手、一個人として接するのだ。だからこそ、相手に表現することを求めることが当然で容易なのだろう。日本人からしてみればそこに気遣いはないように感じるけれど、強さがある。相手に伝える「強さ」だ。

今の私達日本人はコミュニケーションを曖昧にして、気持ちを伝えたり、議論することを忌避しているのではないだろうか。誤魔化したまま終わってないだろうか。シンガポールの人々のように思いを伝えること、気持ちを表現することにもっとチャレンジすべきだと私は思う。

シンガポールの象徴マーライオンをバックに

現代日本社会学科

職業への意識が高まる

新田ゼミ　3年　井上綾佳

私達のゼミは自分たちの希望する職業を見学することに決め、予習していた。一日目の訪問先は皇宮警察学校である。広報の方から皇宮警察の概要や試験の内容などの話を聞き、白バイや武道場を見学した。人を守る仕事には覚悟と努力が必要だと感じ、もっと勉強を頑張ろうと思った。

二日目は、防衛省と国会議事堂、自民党本部に行った。防衛省では記念館で防衛省の歴史や戦争の歴史、戦時中に使用されたものを見学したりした。国民の安全のために厳しい訓練を行い、備えている自衛隊は、本当に素敵な職業だと感じた。

国会や自民党本部は修学旅行で訪れたことがあったが、大学生になってから行ってみると前提となる知識も豊富なのでガイドさんの話もすんなりと頭に入り新たな知識もついた。三ツ矢のりお議員との懇談では、今の日本の課題について詳しく話して頂き、議会のリアルな様子も知ることができた。国内だけでも多くの問題を抱えており、国民自らが動いていくべき時代なのだと思った。

左／消防博物館にて
右／皇宮警察にて

三日目は東京証券アローズ、消防博物館、放送博物館に行った。株取引きをシミュレーションで行ったり、昔の消防車や試乗用の消防ヘリに乗ったり、昔のカメラやテープを聞いたりした。

ゼミ旅行を通して皆との仲が深まり、行く前に調べていたこと以外の発見もあって職業への意識が高まった。そして、歴史を学ぶことで今を知ることができると、改めて実感した三日間だった。

クローズアップゼミ
研究室探訪14

国文学科 助教
岡野裕行ゼミ

記録媒体としての本を研究

私の研究テーマは文学館や文学資料が抱える諸問題を検討することです。文学作品に描かれた内容やその作家自身について研究するのではなく、それらが記録された資料の変遷やその収集・整理・保存・公開のあり方など、「モノとしての本」がどのように残されていくのか（残していくのか）について関心を持っています。文学の作品研究や作家研究ではなく、資料研究という分野に関心を持つようになったのは、私自身が大学で図書館情報学という学問を専攻してきたためです。

私のゼミでは図書館司書課程の授業内容を踏まえつつ、図書館や文学館と呼ばれる資料アーカイブ施設の機能や役割について学んでいます。文化情報資源を今日に伝え、その活用を図ろうとするこれらの施設の特徴を考える際には、単に資料そのものの取り扱い方法(収集・整理・保存・公開)だけではなく、施設・設備の維持管理や運営手法、利用者へのサービスのあり方、図書館活動にかかわる法制度や歴史、さらには近年発達の著しいコンピュータを活用した情報検索や資料デジタル化技術など、さまざまな切り口から考えていく必要があります。

より便利で効果的な図書館サービスが模索されている現在では、毎日のように図書館関連の新しいニュースが伝わってきます。変化も激しい分野のため、私のゼミでは毎年少しずつテキストを入れ替えることで、そのときに図書館業界で話題になっているテーマをたどっています。通常の司書課程の授業のなかでは取り扱えなかった題材を深く掘り下げながら、ゼミのみんなで楽しく議論を行っています。

旅は"生きた教科書"

ゼミ旅行は多くのことを教えてくれる"生きた教科書"だ。旅先で出会った人々との交流や歴史の重みを伝える史跡旧跡、また、仲間との語らいを通して学生たちは何を学び、感じたのか――以下に学生の感想を紹介する。

福岡県平原遺跡（弥生時代の王墓）にて

ゼミ旅行報告記

神道学科

開拓者の気吹（いぶき）を感じた北海道

白山ゼミ　3年　**矢島陽子**

私たち白山ゼミは、９月12日から９月15日にかけて、函館、小樽、札幌と研究旅行に出かけた。私は北海道は初めてで、気候の違い、建物の違い、文化の違いなど、様々な違いを身をもって体験した。

この研究旅行の中で、札幌市内に鎮座する北海道神宮への正式参拝を行った。北海道神宮は明治２年創建。もとは札幌神社といわれ、大国魂神、大那牟遅神、少彦名神、明治天皇が開拓の守護神としてお祀りされており、ご本殿は伊勢の神宮の古材を使って造営されたという。

神社といえば、普通は南向きに鎮座していることが一般的だが、北海道神宮に関しては、ご祭神が開拓の守護神ということもあり、当時樺太や千島に進出していたロシアに対する守りということで、敢えて北東を向いていた。末社である開拓神社にも、武田信広命をはじめとする北海道開拓の功労者が祀られていた。

羊蹄山を背景に

北海道における神社は凡そ明治の創建が多く、歴史がそこまで古いわけではない。しかし、明治維新を迎え、蝦夷地から北海道へと改称され、日本の領土として再出発した当時の、尽力された方々の気吹が今でも感じられるようであった。

遅くまで到着を待って下さった井澤権宮司様を始め皆様に感謝申し上げます。

平成24年度　研究旅行日程一覧

学科	引率教員	日　程	目的地・方面
■国　内			
神道	白山　芳太郎	9/12㈬～14㈮	北海道（道南・道央）
	松本　丘	9/12㈬～15㈯	東北地方
国文	大島信生 三品理絵	9/11㈫～14㈮	山口・津和野・出雲・松江
	高倉一紀	9/12㈬～15㈯	丹波・丹後・因幡
	深津睦夫	9/12㈬～15㈯	信州
	齋藤　平	9/11㈫～15㈯	岩手県
	中川照将	9/12㈬～14㈮	京都府
	岡野裕行	9/7㈮～10㈪	金沢・富山・上越・小布施
国史	上野秀治	9/13㈭～16㈰	高知
	岡田　登	9/13㈭～16㈰	北九州地方
	岡野友彦	9/11㈫～14㈮	博多・対馬・福岡・長崎
	松浦光修	9/12㈬～15㈯	鹿児島・下関・萩
	多田實道	9/10㈪～14㈮	長野・栃木・東京・神奈川
	谷口裕信	9/12㈬～15㈯	盛岡・水沢
現日	筒井琢磨	9/12㈬～15㈯	東北地方
	富永　健	9/10㈪～13㈭	東京
	新田　均	9/10㈪～13㈭	東京
	橋本雅之	9/10㈪～13㈭	東京
	山中　優	9/10㈪～13㈭	東京
	岩崎正彌	9/10㈪～13㈭	東京
	藤井恭子	9/13㈭～15㈯	北海道
■海　外			
国文	上小倉一志 松下道信	9/11㈫～14㈮	台湾（高雄・台南・台北）
国史	田浦雅徳 児玉玲子	9/16㈰～19㈬	中国（大連・旅順）
コミ	池田　久代 山田やす子	9/10㈪～13㈭	バリ島
	上久保達夫 張　磊	9/10㈪～14㈮	シンガポール
	森　真一 前田至剛	9/10㈪～14㈮	グアム
	豊住　誠 川村一代	9/9㈰～14㈮	シンガポール
現日	笠原正嗣 関根　薫	9/10㈪～14㈮	グアム

国文学科

知識と絆を深めた四日間

深津ゼミ　3年　**日野志保**

深津ゼミは９月12日から９月15日までの４日間、長野県で中世文学の世界を味わった。小布施や姨捨を訪れ、和歌が刻まれた石碑を見て友人とその意味を考えたり、深津先生に解説していただいたりもした。他に、善光寺や諏訪大社を参拝し、諏訪大社上社本宮では正式参拝をした。正式参拝は緊張したが、皇學館の国文学科を卒業された先輩が奉職されており、境内案内をしていただき、ご由緒だけでなく社殿の造りや御柱祭などの説明を受けた。下社秋宮では実際に参拝することで浮かぶ疑問もあり、深津先生とご一緒に疑問を解決できた時は嬉しかったものである。

姨捨にて

そんなたくさんの思い出の中で特に印象的だったのは、最終日に訪れた大河原城跡である。大河原城跡は南北朝時代に宗良親王（後醍醐天皇の皇子）を生涯にわたってお守りした高坂高宗の居城だ。ここはだいぶ山の中にあり、住民以外は私たちゼミ旅行のメンバーしかいないようなところだったが、坂道を登り降りしながら山の空気を味わっては友人と楽しかったゼミ旅行の思い出を振り返った。また、信濃宮神社について深津先生にわかりやすくご説明をしていただき、ゼミ旅行前に調べ得た知識を深め、家に帰ってからはもう一度じっくり宗良親王の和歌を味わった。

そして、知識を深め研究意欲を高めるだけでなく、３か所全ての宿泊場所で友人と夕食前後の２回温泉に入って楽しんだ。友人たちと寝食を共にし、今まで以上に絆を深めることができた素敵なゼミ旅行となった。

倉陵祭 開催のお知らせ

11月2日㈮～4日㈰

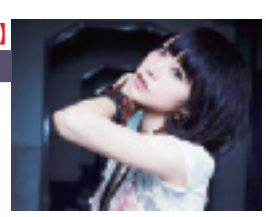
樽神輿・展示・模擬店など楽しいイベントがいっぱいです。友人やご家族と、ぜひ遊びに来てください！

アーティストライブ【入場無料・要整理券】

11月3日㈯　18:00～（17:00開場）

LiSA

観客と一体になる
ライブパフォーマンスは圧巻。



講演会【入場無料】

11月4日㈰　13:00～（12:30開場）

山口　香氏

「柔道と人間力
―精力善用・自他共栄―」

校友会新役員決まる

校友会選挙が行われ三人の新役員が選出された。以下に、各員の抱負を掲載する。

これから約一年間、皇學館高校の代表としてリーダーシップをしっかりとれるように頑張っていきたいと思います。そして、演説で言ったように相談箱の設置なども考えているので、実現できたときは多くの意見を寄せてください。少しでも皆さんの期待に応え、皇學館高校を良い方向に変えられるように務めていきますので、応援よろしくお願いします。

総務委員長　二年八組　山口　嵐

◆◆◆

私は校友会総務副委員長という立場から、この学校を良くするための道筋を皆さんの意見を取り入れながら示していきたいと思っています。皆さんと力を合わせ頑張っていきたいと思っていますので、今後ともご支援の程よろしくお願いします。

総務副委員長　二年六組　鬼頭雄也

◆◆◆

私は皆さんがこの学校を卒業した際に、皇學館高校に進学して良かったと思ってもらいたいです。校則を変えることはできません。けれど、校内の雰囲気を変えることはできます。皆さんと協力して皇學館高校の発展に貢献していきたいと思っています。

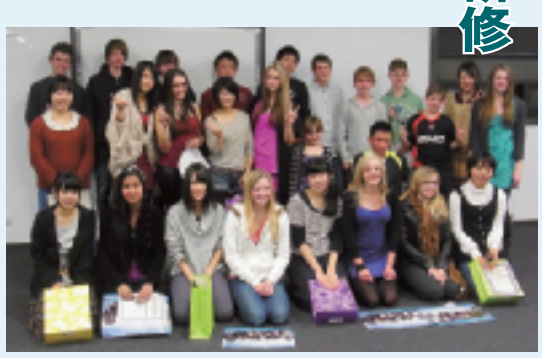
総務副委員長　二年六組　西山知穂

左から、西山知穂さん、山口嵐君、鬼頭雄也君

十一名がメルボルンで語学研修

七月二十三日から八月五日までの二週間、オーストラリア・メルボルンにある姉妹校ローズヒルセカンダリーカレッジにおいて生徒十一名が語学研修を行った。行きは台風の影響により香港の空港で二十七時間足止めされたが、それ以外は怪我人や病人が出ることもなく、無事に研修を終えることができた。

生徒たちは教科書では得られない異文化体験をし、コミュニケーションの難しさや大切さを実感した様子。外国人の友達ができたことで視野も広がり、充実した時間を過ごしたようだ。この研修を契機に彼らが世界に目を向け、日本を代表する国際人として成長してくれることが期待される。


充実した表情を見せる参加者たち

皇高NEWS

過去最多の九十七名が参加

第七回 皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテスト

学外の小中学生を対象に開催している英語スピーチコンテストが八月二十五日に行われ、小学生の部には五十一名、中学生の部には四十六名と、前回のおよそ二倍となる過去最多九十七名が参加した。

小学生の部では英語教育が必修されたこともあってか、スピーチ、態度ともに素晴らしく、日頃の英語学習への高い意識が伝わってきた。市内からの参加者が増えた中学生の部ではスクリプト(原稿)の内容が良く、また、文法のレベルも高かった。とくに受賞者たちは発音、抑揚、姿勢、ジェスチャーともに甲乙つけがたく、審査員を困らせた。最後の発表が終わるまで会場の聴衆はスピーチに聞き入り、非常に緊張感のあるコンテストとなった。

年々、コンテストの知名度＆レベルがアップ

結果

【中学生の部】

優勝　俵　育美（三重大附属中学校）

準優勝　野内　サリ（白子中学校）

第三位　船谷　奈那（朝陽中学校）

特別賞　井関　小百合（セントヨゼフ）

福田　佳加（赤目中学校）

海野　里央名（朝陽中学校）

島田　雄大（一志中学校）

【小学生の部】

《Beginner》

優勝　上阪　奈那（G.E.S英会話）

準優勝　中山　聡（e-kids English）

特別賞　前田　光（大湊小学校）

《Advanced》

優勝　田中　乃々華（藤水小学校）

準優勝　前田　さくら（大湊小学校）

特別賞　元水　こころ（鈴西小学校）

防災への意識付けを

中・高合同で防災避難訓練

防災の日の九月一日、皇學館高校・中学校合同による防災避難訓練を行った。三限目の授業中の十時二十分、震度五～六程度の東海地震が発生したと想定。毎年改定している「防災マニュアル」を基に、教室内で安全を確保した後、先生方の誘導に従って旧武道館跡と精華寮前へ避難した。

〝押さない・走らない・しゃべらない〟避難をめざし概ねスムーズだったが、一部しゃべる生徒も。訓練後の講話では、まず自分の身の安全を確保すると同時に、「訓練に真剣に取り組む姿勢が大切」と生徒に訴えた。

「訓練で意識付けをすることで、いざというとき臨機応変に対応できるようにしたい」と高等学校の多田真二教頭。高校三年の矢野翔大君は「東日本の大震災もあったし、東海地震もいつ起こるかわからない今、みんなの意識は上がっている」、同三年の江川真林さんは「実際に地震が起きたら先生の誘導も聞こえないかも知れないので、真剣に取り組むことが大切だと思う」と語っていた。

避難場所へ移動する生徒たち

皇中NEWS

ともやま公園で宿泊研修

志摩市ともやま公園で一年生が八月二日から一泊の日程で宿泊研修を実施した。台風の接近で心配していたが、天候にも恵まれ、シーカヤックや夕食の野外炊事、キャンプファイヤーなどを行うことができた。活動を通して勉強だけではなく仲間の大切さなど集団生活における様々なことを学んだようだ。以下に生徒の感想を掲げる。

短い期間ながら、友情を深めた宿泊研修

友達と分かり合えた

一年B組　中西亜友

一番の思い出になったシーカヤックは初体験でとても緊張しました。ペアの友達と息を合わせるのが難しく、オールがそろわないのでなかなかスムーズに進みませんでした。やっとたどり着いた無人島には見たことのない貝殻やフワフワ泳いでいるカニがいて、冒険しているようでした。帰りは息が合うようになり、漕ぎながら周りの景色も見られました。息を合わせるのは難しかったけれど、友達と分かり合えた感じがします。

夕食作りではそれぞれの役割を一人ひとりがきちんと果たし、協力できました。宿泊研修は力を合わせることが多く、今まであまり話したことがない人とも共同作業がきっかけで話すことができました。大変なこともありましたが、楽しさの方が大きかったです。「もっと、時間が欲しいな！」と思いました。

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業　寄付者芳名

同周年記念事業は募財活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いており、八月三十一日現在の募金状況は次の通りです。皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともご賛同をお願い致します。

同窓会会員

宮城県
五千円　濱口　裕雅様

岐阜県
一万円　前田　彰様

愛知県
一万円　中村　和昭様

三重県
八万二千円　世古口浩平様
一万円　山本摩希子様
一万円　小野　陽子様
一万円　中西　房子様
五千円　村田　洋子様
五千円　西村　浩行様
五千円　田中　一治様
五千円　片岡　正志様
五千円　正木利恵子様
五千円　髙橋　由衣様
五千円　谷　智明様

京都府
五万円　古山　忠嗣様

福岡県
三千円　大神　徳彰様

後援会賛助会員

三重県
一万円　東　裕樹様
一万円　田畑　裕行様
一万円　竹内　康正様
一万円　森　孝弘様
一万円　工藤　雅俊様

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業寄付金進捗状況

平成24年8月31日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	3	450,000	450,000
企業	42	4,240,000	4,190,000
一般（旧教職員・篤志家等）	18	575,000	575,000
同窓会会員	192	7,500,000	7,500,000
後援会賛助会員	75	1,235,000	1,235,000
本法人関係	125	3,685,000	3,635,000
合計	455	17,685,000	17,585,000

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名・金額等の掲載をご希望されない方々につきましては、別記とさせていただきました。
■同窓会会員／1名　■後援会賛助会員／2名

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付者芳名

周年記念事業につきましては、お蔭様をもちまして盛会に終えることができました。ご協力を賜りました皆様には感謝申し上げます。なお、本募金の依頼は昨年度末をもち終了いたしましたが、お申込み頂きました寄付金につきましては継続させて頂きます。

企業

東京都　二十万円　三井住友海上火災保険㈱様

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付金進捗状況

平成24年８月31日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	634	778,347,000	772,637,000
館友	734	81,934,000	79,799,000
篤志家	56	40,020,000	39,900,000
萼の会	1,892	101,241,000	101,241,000
企業	109	63,570,000	62,330,000
本法人関係	260	60,372,000	60,132,000
合計	3,685	1,125,484,000	1,116,039,000

9会場、のべ256名が参加

平成24年度 萼の会地区別教育懇談会

大学と保護者の方との連携を深める場ともなった懇談会

萼の会地区別教育懇談会が九月一日・二日・八日・九日の四日間、各地九会場（伊勢・四日市・津・名張・浜松・名古屋・京都・神戸・福岡）にて開催された。

各会場では、大学・学園の現況を報告する全体会、教員と保護者が直接膝を交えて学生生活や成績について話をする個別懇談会、そして、軽食を取りながら、保護者と教員さらには保護者同士が親交を深めるための懇親会が行われた。

その他、伊勢・津会場では、ミニ講義（「伊勢平氏の誕生」岡野教授、「日本人と英語」川村准教授）が実施され、普段、学生がどのような講義を受けているのか、その一端を感じていただいた。また、四日市会場では「卒業生との懇談会」、福岡会場では「館友会九州地区との合同懇親会」が実施され、卒業生と就職情報などを交換する場となった。

今年度は、昨年度より約二割増のご参加をいただいた。今後も、保護者の方のニーズに沿うべく一層充実した会を運営していきたい。

萼の会事務局

先輩、お元気ですか

OB・OG訪問

服部（はっとり） 清純（きよずみ） 氏

中日本興業株式会社　会長

国史学科第二期（昭和四十二年三月）卒◆愛知県公務員を経て昭和五十六年に中日本興業㈱に入社。平成五年に社長、同二十二年に会長就任。平成十七年春に「藍綬褒章」受章。

名古屋駅前で映画館を経営しています。娯楽の王様（五十年前の私の学生時代の頃）と言われた映画産業は、現在はマルチフレックスのスタイルで、成長しながら生き残っています。我々の学生時代から見ると全ての事象が何年かのサイクルで、新しく或いは旧に復しながら変化し成長し進化しています。

私の人生訓は「人生は賭けである。勉学はその確率をたかめるものである」です。成功するのは、成功するための努力・勉学を常にしていた人だけです。勉学は学校で習う勉強も一部ありますが、ほとんどが普通に生活している中で学ぶものです。ほんの少し興味をひいたこと・不思議に思ったことを徹底して追及していく探究心ではないかと思います。

例えば有名なお菓子屋さんで美味しい菓子を食べたとします。美味しいと言って食べるのはたんなる客です。何故美味しいのか、何が美味しいのか、材料には何が使われているのか、どのような雰囲気で食べるのが美味しいのか、他の店とはどこが違うのか等いろいろ考え追求することが勉学であり、その世界で成功できる人ではないかと思います。

大学の勉強でも同じです。講義を漫然と聞き納得するのではなく、先生の教えることは間違っていないか、違う考え方はないのか、別な方法はないのかと常に疑問をもって追求するところから最高学府の大学生としての勉学が始まるのではないでしょうか。

我々の学生時代と違い難しく複雑な社会になっています。このような時代を生き抜くためには何故どうしての精神で臨み、最後は良く考えて自分の意思で決定し、自分の責任で人生を送りたいものです。

皇學館高等学校

平成25年度 生徒募集要項

募集人数	345名（予定）
入学資格	中学校卒業者および平成25年３月卒業見込みの者
出願期間	**平成25年１月８日㈫～16日㈬　午前９時～午後３時まで** ※ただし12日㈯・13日㈰・14日㈷は受付ができません。
出願手続	●**入学願書**（本校所定の用紙）　●**調査書**（本校所定の用紙） ●**受検料 12,000円** ※本校所定の用紙（郵便振替）にて、必ずゆうちょ銀行窓口で、お納めください。
入学検査	【日　時】１月29日㈫　９時までに入場完了 【教　科】国語・数学・英語・理科・社会　【方式】マークシート方式 【検査場】皇學館高等学校
合格発表	２月４日㈪に、合格通知を中学校と本人宛に発送します。 （電話によるお問い合わせには、お答えできません）
入学手続	**２月15日㈮ 午後３時までに、入学金45,000円**を納入してください。 （本校所定の用紙にて、必ず銀行窓口でお納めください）
学費	【入学時の経費】　教育充実費 200,000円 【入学後の経費】（月額）　授業料 21,500円【参考】月額9,900円は国が負担（H24年度） 教育充実費 10,000円 その他 4,400円
特典	皇學館大学への進学希望者には、附属高校特別推薦枠・入学金半額免除などの特典があります。
推薦および特別奨学生について	❶「特別進学コース」「進学コース」それぞれのコースに専願・推薦制度があります。 ❷所属中学校長の推薦書により、学業・人物優秀と認められる生徒に対しては学力特別奨学生としての特典が認められます。 ❸県大会などで顕著な競技実績をもつと同時に、本学の授業内容を習得できる学力を有し、人物面でも優秀な生徒に対しては、スポーツ・芸術推薦及びスポーツ・芸術特別奨学生の制度があります。 （詳細はお問い合わせください）

イベント開催のお知らせ　**第３回 学校見学会**　開催日●**11月17日㈯**

皇學館中学校

平成25年度 生徒募集要項

	A日程	B日程
募集人数	約60名	約10名
入学資格	平成25年３月小学校卒業見込みの者（男女共学）	
出願手続	●**入学志願票**（本校所定の用紙・受験票を含みます） ●**受験料 12,000円**（本校所定の用紙にてゆうちょ銀行窓口でお納めください）	
出願期間	**平成24年12月10日㈪～26日㈬** **午前９時～午後３時** ※15日㈯は正午まで。16日㈰・22日㈯・23日㈰・24日㈷は受付ができません。	**平成25年１月15日㈫～19日㈯** **午前９時～午後３時** ※19日㈯は正午まで。
出願方法	【持参する場合】 出願書類を取りそろえ、所定の封筒に入れて学校事務室へ持参。 【郵送する場合】 出願書類と受験票返信用封筒（**住所・氏名の記入、返信切手（書留速達代770円）の貼付が必要**）を所定の封筒に入れ、必ず書留速達で郵送。 ➡〒516-8588 伊勢市楠部町138　皇學館中学校事務室　☎0596-23-1398	
試験日時	**平成25年１月12日㈯** **午前９時30分より**	**平成25年１月20日㈰** **午前９時30分より**
試験教科	国語・算数・作文（各50分・100点）	国語・算数（各50分・100点）
合否発表	各家庭に郵送（電話によるお問い合わせにはお答えできません）	
	平成25年１月15日㈫	平成25年１月23日㈬
合格者登校日	平成25年１月19日㈯ 午前10時より本校にて	平成25年１月26日㈯ 午前10時より本校にて
入学手続	入学金 45,000円 ＋ 教育充実費（入学時）150,000円 ＝ 計 **195,000円** （所定の用紙にて銀行窓口でお納めください）	
	１月18日㈮ 午後３時までに 振り込んでください。	**１月25日㈮ 午後３時までに** 振り込んでください。
学費（月額）	●授業料 **21,500円**　●教育充実費 **10,000円** ●その他 **4,300円**（保護者会費・後援会費・校友会費・図書費ほか） ※入学試験の成績優秀者は選考の上、特別奨学生として授業料免除の特典が与えられます。	
特別奨学生制度	人物優秀で、次のいずれかの基準を満たす者から選考し、入学金および授業料の納入を免除します（入学を確約する者に限ります）。 ❶入学試験の成績が特に優秀な者　❷小学校長または学習塾長から学業成績が特に優秀であると推薦され、入学試験の成績が優秀な者	

イベント開催のお知らせ

皇中祭　２日間とも入学を希望する小学生・保護者の皆様を対象に一般公開も行っています。ぜひ、お越しください。

11月３日㈷	10:30～	**合唱コンクール・合唱同好会発表**（中学校第３体育館）
	13:30～	**記念行事**
11月４日㈰	9:00～	**皇學館高校吹奏楽部演奏**（中学校第３体育館）
	10:40～	**クラス展示・保護者会バザー・軽食販売など**（中学校校舎）

第２回 学校説明会

学校や入試の説明を行うほか、入試対策授業もございます。ふるってご参加ください。

日時●**11月18日㈰ 9:30～**
場所●**本校セミナーホール および各教室**
予約不要

子どもと学生が共に成長

夏休み子どもキャンプ2012

知らない子や大学生と仲良くなり、キャンプ一番の思い出となった一之瀬川の川遊び

八月三日・四日、同六日から八日にかけ、本学教育学部・叶俊文教授のゼミ活動の一環として〈夏休み子どもキャンプ〉が行われた。これは、小学三年～六年生の児童を対象に、〝生きる力〟を養ってほしいと企画されたもの。もとは名張学舎で毎年開いていたが、伊勢地域では今回が初めての開催となった。

一泊二日、二泊三日の二コースが組まれた今回のキャンプには、あわせて二十八名の小学生が参加した。内容は一之瀬川での川遊びや〝環境にやさしい〟カレー&サラダ作り、伊勢の名所を散策するウォーキング、芝生広場での一人寝体験など。子どもたちに自然の中での共同生活を通して協調性や自立心を身につけてほしいと、叶教授指導のもと、教員をめざすゼミ生十四人が中心となって運営し計画を練った。

最終日、各班で感想を発表

キャンプでは、コミュニケーション力を磨くため同じ小学校の児童や友達でかたまらないよう、四、五人ずつの班に分かれスタート。最初は知らない者同士表情が硬かった子どもたちも、川遊びを楽しんだり力をあわせて一つの作業に取り組むうちに生き生きとした笑顔を見せるように。環境にやさしいカレーとサラダはどうしたら作れるのか、班ごとに話し合った際には、「野菜を小さく切ると火の通りが早くなり、嫌いなものでも食べられるから食べ残しが少なくなる」といった意見が子どもたちから出たという。

「今の子どもたちは生活にまつわる実体験が乏しい。たとえば、夜、星空を眺めながら一人で野外に寝ると恐かったり寂しかったりしていろんなことを感じます。そうした機会をこのキャンプで提供できれば」と叶教授。学生にとっても子どもたちの笑顔と成長は大きな喜びになった。教育学科三年の石坂健太君は、「最初は指示しなければできなかった料理も、二回目、三回目になるにつれ自分たちで考えて動くようになりました」と手応えを感じた様子。同宮瀬遥さんも、「年下の子ばかりの班に当たりポツンと一人離れていた五年生の女の子が、一緒に過ごすうちにだんだん打ち解けるようになって、ウォーキングの時には下の子の手を引いて楽しそうに歩いていたのが嬉しかった」と笑顔で話していた。

勾玉作りに挑戦

神道博物館◆夏休み親子教室

毎年好評を得ている神道博物館の「夏休み親子教室」が七月二十五日・二十八日の二日間、徴古館で開催され、親子約二十名が参加した。

三重県埋蔵文化財センターの田中久生先生、奥田勝久先生を講師に招き開かれた今回のテーマは「まがたまを作ろう」。古代の装飾品である勾玉は縄文時代に始まったとされ、動物の歯牙に穴をあけ首にかけることでお守りや魔除けの意味合いがあったという。弥生時代には石で作るようになり、日本各地の古墳や遺跡からヒスイ製やメノウ製の勾玉が多く出土している。

教室では〈ろう石〉と呼ばれる半透明の柔らかい石を使って勾玉作りが行われた。鉛筆で好みの形を石に描き、サンドペーパーで不要な部分を削っていく参加者たち。石の粉で手を真っ白にしながら、親子ともども無心で削る姿が見られた。今年で七回目という常連組の母娘は春慶塗りや染物など毎年違うテーマに取り組めて楽しいと話し、「勾玉が手作りできるとは知らなかった」と驚いていた。神社小学校四年の女児は「くぼみを削るのが難しかった」と言い、「最後に水で磨く時、だんだんツルツルになっていくのが面白かった」と嬉しそうに語った。

上／黙々と作業に取り組む親子
下／造営作業で使用される大工道具などについて、「せんぐう館」で解説を受ける子どもたち

勾玉作りの後は今年四月、外宮まがたま池のほとりに開館した「せんぐう館」へ移動。外宮正殿東側の四分の一部分を原寸大で再現した精巧模型や御装束神宝の製造工程の様子など、子どもたちは数々の展示物に興味深そうに見入っていた。模型を目にした男性は、「迫力に圧倒された。伊勢に居ながら式年遷宮のことをあまり知らなかったので、今日はいい勉強になった」と語っていた。

一行はその後外宮を参拝して解散。どの参加者も手作りした勾玉を首にかけ、満足した様子だった。

史料編纂所の公開講座が二十周年

毎年夏に開催される本学史料編纂所の公開講座は、歴史に関心を持つ一般の方を対象に、史料に基づいてわかりやすく歴史を語る講座です。

平成二十四年は『日本書紀』『古事記』を統一テーマとして、遠藤慶太・荊木美行・岡田登の三名の所員による講座を実施しました。それぞれのタイトルは『任那』をたずねて」・「神功皇后紀と好太王碑文」・「三重の采女と伊勢の大鹿氏」です。対外関係記事や三重の采女伝承を通して古代史の魅力を伝えることができたと思います。

夏の恒例行事として定着しつつあるこの公開講座ですが、じつは今回が節目となる二十回目の講座でした。平成五年、最初の講座をふりかえってみますと、当時の所長・渡辺寛先生による「木簡総論」、荊木・岡田所員がそれぞれ「木簡と律令制」「伊勢伊賀志摩国関係の木簡」、そして奈良国立文化財研究所(当時)の綾村宏先生を招き「平城京と長屋王家の木簡」を講演していただいています。

皆勤賞を受け取る四日市市在住の男性

受講生には毎年欠かさず熱心に参加される顔なじみの方も多く、皇學館は社会に開かれた大学として、この二十年間、地域の方に生涯学習の機会と場所を提供してきました。今回は感謝の意味も込め、公開講義が終了してから岡田登所長より連続受講の方の表彰ならびに記念品の贈呈が行われました。

遠藤慶太

平成５年・第１回目の講座の様子

イベント情報(10～12月)

10月

28日 431教室
第13回 高校生英語スピーチコンテスト

11月

2～24 佐川記念神道博物館２階 第２展示室
平成24年度 皇學館大学博物館学芸員課程卒業展示

10 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「神道の作法～伝統の心と技～(2)」
◆本澤雅史 文学部教授

13 創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座　224教室
古事記の世界◆東京大学大学院人文社会系研究科教授・本学客員教授　菅野覚明 氏

15 現代日本学会・特別講演会　621教室
私はなぜ熊野に来たのか。何を発信しているのか◆元朝日新聞論説副主幹　桐村英一郎 氏

17 古文書講座　712教室
古文書を読もう!(近代)◆谷口裕信 文学部准教授
月例文化講座　431教室
ことばと文化の諸相◆山田やす子 文学部教授
皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「第１代神武天皇・中」
◆白山芳太郎 文学部教授

24 神道博物館教養講座　佐川記念神道博物館講義室
伊勢の神宮を語るⅠ―日本文化の源流を考える―「神宮式年遷宮の歴史」
◆井後政晏 文学部教授
皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教 ―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離―「八坂神社における神道と仏教」
◆河野訓 文学部教授

29 経営戦略セミナー(第２回)　621教室
《未定》◆東海旅客鉄道㈱代表取締役会長・本学客員教授　葛西敬之 氏

12月

1 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「神社に伝わる道教文献」
◆松下道信 文学部講師

6 第22回 現代日本塾　621教室
輝いてこそ、華 ―国際日本学と私学教育―
◆私立大学連盟副会長・学校法人明治大学学事顧問　納谷廣美 氏

8 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「第１代神武天皇・下」
◆白山芳太郎 文学部教授
月例文化講座　431教室
中国の茶文化について◆張磊 文学部教授

11 創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座　ウインクあいち(名古屋駅前)
日本の再生◆数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授・本学客員教授　藤原正彦 氏

15 古文書講座　712教室
古文書を読もう!(近代)◆田浦雅徳 文学部教授
皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「聖徳太子と公務員」
◆新田均 現代日本社会学部教授

22 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「神道の作法～伝統の心と技～(3)」
◆本澤雅史 文学部教授
皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教 ―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離―「松尾大社における神仏習合と神仏分離」
◆河野訓 文学部教授

◉各講座の詳細につきましては、**本学ホームページ**にてご確認いただきますようお願い致します。
◉**共催講座**(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、**有料**です。お問い合わせは**近鉄文化サロン阿倍野**(☎0120-106-718)へお願い致します。
◉**神道博物館教養講座**は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは(☎0596-22-6471)へお願い致します。
◉その他お問い合わせは、**皇學館大学企画部**(☎0596-22-6496)へお願い致します。

編集後記

◆古事記撰上千三百年記念行事では、数々の舞台やテレビ番組で活躍中の平野啓子さんをお招きしました。優雅な衣装に身を包んだ平野さんの臨場感あふれる迫真の語りに学生たちは魅了されました。また、本学毛利教授による講演は、古事記における世界観を分かりやすく解説し、古事記ファンはもちろん入門者にも満足頂ける内容でした。今回の記念行事は学内行事として催されましたが、今後はこのような催しを通して古事記の魅力を広く一般の方に伝えていくことも本学の重要な使命の一つと考えます。【企画部】